

令和6年度地域包括ケアの地区展開報告会 質問及び回答

No	質問	回答
1	居宅の皆様の健康管理、増進にオンラインプログラムをどのように活用していくか。	○松沢あんすこでは、【オンラインお話し会】を開催しています。 コロナ禍で外出ができず、孤立気味になっている高齢者が増えていたことを契機に、パソコン講座を開催してZOOM操作を習得してもらうところから始めました。 現在は自主グループ化しており毎月1回1時間程度、ご自身の健康管理について参加者同士で共有しています。あんすこも毎回参加し健康に関する講座等の周知を行っています。 ○社協松沢地区事務局では、【スマホサポート会】を開催しています。 地区サポーター(地区在住の登録ボランティア)が主体となり、地区内にキャンパスがある日本大学文理学部の学生ボランティアの協力を得て、スマホにかかわる困りごと・悩みごとの解決をお手伝いしています。 スマホをより身近に感じていただくことで近隣との関係づくりや社会参加を促し、報告で触れた認知症予防や健康寿命の延伸、広義には健康管理・増進に役立つと考えています。
2	アクションミーティングから3チームが発足するまでの経緯を知りたい。	①地区住民を招いて令和4年10月と12月に四者連携主催のアクション講座を開催しました。 ②アクション講座の出席者からアクションチームメンバーへの参加を募った結果、25名のメンバーが集まりました。 ③令和5年3月と5月に四者連携主催でアクションミーティングを開催し、地区の多様な方々によるグループワークでアイデアを出し合いました。 ④③の結果、「かみまちオレンジカフェチーム」「かみまち大人のあそび場チーム」「多世代交流チーム」の3つのアクションチームが誕生しました。 「かみまちオレンジカフェチーム」 →コロナ禍以降、上町地区の認知症カフェがなくなっていたことから、アクションチームでの立ち上げを提案しました。 「かみまち大人のあそび場チーム」 →町会長のご自宅で行っていた朗読と歌の会に、チームメンバーとなった区民の方が得意とする早口ことばをプラスして認知症予防効果も期待しての居場所として、場所を町会長のご自宅から、まちづくりセンター活動フロアーに移して開催することを提案しました。 「多世代交流チーム」 →グループワークでのボランティアの方からの「大学生などと高齢者が交流できる場があるとよい」という意見から提案しました。

令和6年度地域包括ケアの地区展開報告会 質問及び回答

No	質問	回答
3	移動販売車はもともとセブンイレブンが所有していたのでしょうか。新たに取り入れたのでしょうか。	『セブンあんしんお届け便』は、お買い物が不便な地域にお住まいの方や、外出するのが難しい高齢の方々などに向けて実施している移動販売サービスです。移動販売車はセブンイレブンが所有しています。2011年より茨城県にて開始し、2024年2月末時点、1都1道2府37県で125台が運行中です。 都営桜一丁目アパートには、世田谷1丁目の「セブンイレブン世田谷駒留通り店」から販売車が来ています。 「セブンイレブン世田谷駒留通り店」では都営桜一丁目アパートに加えて都営池尻二丁目アパート、都営下馬二丁目アパートにもそれぞれ曜日を変え販売車が来ています。
4	学び交流会開催の経緯や内容について更に聞いてみたかったです。	上町地区の課題として、「見守り活動の推進」及び「地区防災力の向上」があり、その課題解決のために「広報学び交流会」、「防災学び交流会」の2つの学び交流会を開催しました。 「広報学び交流会」では、株式会社石塚計画デザイン事務所の千葉晋也氏を講師に招き、「広報の極意（チラシづくり）を学ぶ」というテーマで行いました。福祉サービス事業者、子育て支援事業者、商店街や町会を対象に、地域づくりにおける関係強化の促進や、地区活動に参加する団体・ひとを拡げるため、身近である広報をテーマに企画しました。 「防災学び交流会」では、せたがや防災NPOアクションの宮崎猛志氏を講師に招き、「在宅避難はなぜ必要なのか」というテーマで行いました。福祉サービス事業者や防災士有資格者の民生委員・児童委員、町会を対象に、団体間での情報交換の機会を提供しながら連携を深め、災害時に相互に助け合う関係づくりにつなげる防災をテーマに企画しました。 2つの学び交流会を実施して、今まで知り合えなかった事業者、地区住民との顔が見える関係性を築くことができました。また、グループワークは、団体の活動や課題への対応に、協力関係が生まれるきっかけづくりの場となりました。（必要に応じて、募集チラシをHPにアップさせることも可能です。）
5	移動販売を誘致するまでにどれくらいの時間がかかったかを知りたい。	令和4年10月、地域住民から買い物困難に関する相談が社会福祉協議会に寄せられました。その後、アパート自治会や民生委員等関係者にヒヤリングを実施しました。 併せて令和5年2月、世田谷1丁目の「セブンイレブン世田谷駒留通り店」から移動販売に関する相談が入り、「セブンイレブン世田谷駒留通り店」とアパート自治会の顔合わせを数回実施し、令和5年4月より移動販売がスタートしました。

令和6年度地域包括ケアの地区展開報告会 質問及び回答

No	質問	回答
6	職員の問題意識がとてもよく伝わってきた。取組みのユニークさが新鮮だった。一方で、既存の活動者がどう主体的に関わっているのか、もっと知りたいと思った。	○区では、指定避難所（区立小中学校等に設置）の運営を指定区域にある町会にお願いしておりますが、避難所運営委員会の委員の大半は町会役員の方々です。まちセン職員は事務局として訓練や会議等のサポートをさせていただいています。 ○今回は初めての試みであったこと、訓練に携わる運営委員の人数に余裕がないこと等から避難所運営委員会には主に、当日来場された方から町会や避難所活動に関する質問や加入の申し出等があった際の対応をしていただきました。
7	町会加入をすすめる取組みへの町会の方のかかわり、意見などはどのようなもの、町会加入者と町会役員のかかわりなどは？	○各町会では機会あるごとに会員を増やす工夫をされていますが近年リタイア年齢が上がり、役員として活動できる時間的・経済的ゆとりのある方が見つかりにくくなっています。区が設置している会議体の委員などを複数兼務している役員も珍しくありません。こうした状況下で行った今回の取組みは、ある程度の期待を込めて賛同していただけたと受け止めています。 ○今回配布したチラシは町会ごとに作成し、日頃の活動内容、町会費、町会長の連絡先などの他、各町会長等からいただいたご意見やフレーズも反映させています。 ○松沢地区の場合、町会加入者は町会により数十から千数百世帯とばらつきがあり、町会役員の方々とのかかわり方はそれぞれようです。役員の方々と直接顔を合わせる機会は各町会で実施するイベント等が多いようです。
8	盛りだくさんで素晴らしい発表だったと思う。スペース2020について、もう少し詳しく聞きたかった。	ありがとうございます。時間の都合上、どの事業も要点のみの発表となりました。ご不明な点等ございましたら、用賀まちづくりセンターまでお問い合わせください。
9	スタンプラリーは何回でも参加できるのですか。同じ方ばかりにはならないものですか。	本事業は閉じこもり予防の課題解決の観点から、主に高齢者の外出促進、健康づくりを目的に行っているため、同じ方が何回でもご参加いただけます。参加者募集の際には、新規の方だけでなく、継続した支援のため過去の参加者にもお声掛けしているので、続けて参加いただいている方も多くいます。